

至仏山-平ヶ岳-越後駒ヶ岳

縦走報告

2010 年 5 月 1 日(土)ー5 日(水)

M4 只左一也

0 日目：上野駅→(JR鈍行)→ 水上駅(駅で仮眠)

1 日目：水上駅→(バス)→湯ノ小屋→
→笠ヶ岳手前 螢池付近(幕営：C1)

2 日目：C1→笠ヶ岳→至仏山→ススケ峰→
→白沢山手前のコル(幕営：C2)

3 日目：C2→平ヶ岳→剣ヶ倉山→滝ヶ倉山→
→藤原山→大水上山→丹後山→
→避難小屋(小屋泊)

4 日目：避難小屋→大水上山→兎岳→中ノ岳→
→越後駒ヶ岳→駒ノ小屋(小屋泊)

5 日目：駒ノ小屋→小倉山→駒の湯温泉→
→大湯温泉→(バス)→小出駅→
→(JR鈍行)→新宿駅

利根川源流を取り囲む、白毛門～巻機山～丹後山～大水上山～平ヶ岳～至仏山の尾根は地図で見えずと昔から気になっていた。実は、去年の連休、S61 卒の吉筋先生とこの尾根を縦走する計画が持ち上がったのだが、事情があつて日数のかかるこの計画はつぶれてしまった(代わりに白山を 2 泊 3 日で縦走した。この時に、エキスパートの吉筋先生から残雪期の雪尾根歩きの技術を教えて頂いたことは大変大きかった)。

ネットでこの山域の縦走記録を見たり、昔の『岳人』(2001 年 4 月号)の「残雪が登らせてくれる山」と題した、このコースの紹介の記事を見たりして、このコース、特に平ヶ岳～大水上山の尾根を残雪期に歩きたいという気持ちが日増しに強くなり、学生生活最後となる 2010 年のゴールデンウィークは何とかして実現しようと、1 年かけて情報を集めながら計画を練っ

てきた。

この冬、気温が低くて日本海側は雪が多く、「連休の頃はようになるだろう…」と 1 月頃から気にしながら過ごしてきた。4 月に入ってもかなりの降雪があり、古い雪の上に新雪が積もるとクレバスが隠れてしまうので、気をもんでいた。

去年は、白毛門～巻機～大水上～平ヶ岳～至仏と、ぐるっと周回型の縦走をしようと思っていたが、1 年経つうちに、至仏山から、平ヶ岳～大水上山～中ノ岳～越後駒ヶ岳と、南からより雪の深い北へと縦走して、豪雪地帯の春を味わってみたいと思うようになった。また、鳩待峠は標高が高くて便利なのだが連休中は大変人が多くて幻滅だろうし、尾瀬の標高の高さを実感するためにも、敢えて標高の低い湯ノ小屋から笠ヶ岳経由で至仏山に入ることにこだわった。その結果、今回の 4 泊 5 日の計画となった。

3 月 4 月の山行の疲れが抜けない状態で、重荷を担いでの縦走はハードだったが、25 年ぶりという好天(連休 5 日間すべて晴れ)に恵まれ、計画通り縦走を行うことができた。この冬は多雪だったことも幸いして、豪雪地帯の残雪の山々は期待以上の景色で、私のこれまでの山行の中でも最も印象深いものの一つとなった。

0 日目 (4 月 30 日(金))

上野駅

19:30 発(JR 鈍行)

水上駅

22:26 着

(駅前で仮眠)

泌尿器科病院実習の試問が夕方に終わり、本郷から大きな荷物を背負って上野駅まで歩き、通勤客と旅行客で混雑する高崎線に乗りこんだ。高崎で水上行きの電車に乗り換え、終点で下車。駅員さんのご好意で、駅の玄関の中で寝袋を敷いて仮眠を取らせていただいた。玄関の天井にはツバメが巣を作っていて、私の頭のすぐ上ではツバメが眠っていた。



水上駅の玄関で仮眠。

1 日目（5 月 1 日(土)）

起床	06:00	
水上駅	07:40 発(バス)	
湯ノ小屋	08:30 着	08:50 発
林道ゲート	10:05 着	10:15 発
咲倉沢ノ頭避難小屋	14:30 着	14:40 発
幕営地点(C 1)	17:10 着 (幕営)	
	(歩行時間：約 7 時間半)	

始発の電車の音で目が覚めた。のんびり朝食をとり、支度をして、駅前から湯ノ小屋行のバスに乗り込んだ。乗客は私と、武尊岳に日帰りでピストンするという若いカップルだけだった。

終点でバスを降り、登山靴に履き替えて出発。連休中だが、全く人影がない。車道を 5 分ほど歩くと登山道入り口の標識がある。少し分かりにくい山道を登って行くと笠ヶ岳へと続く尾根に出た。尾根には雪がわずかにある程度だが、雪は程よく締まっていて歩きやすい。樹林の間から 2 週間前に登った武尊岳が見える。やがて林道にぶつかり、林道を 10 分ほど歩くとゲートがある。ここからは尾根筋の登山道が笠ヶ岳まで続いている。初めのうちは尾根がなだらかでなかなか高度は上がらないが次第に雪が多くなる。荷物が重く、また先週の皇海山～袈裟丸縦走、先々週の武尊岳山行の疲れが抜けていないようで体が重く、ペースが上がらないが、避難小屋の先にさえ行けばどこにでもテントを張れるので気楽だった。ときどき荷物を下ろして、周囲の景色を楽しみながら休憩をとる。左手には今日

の目的地、笠ヶ岳(2058m)が樹林の間から高く見える。

次第に傾斜がきつくなり、体と荷物の重みで時々雪の中に潜るようになる。一度、ズボッ、と右足が雪の中に潜って、地面に着いたと思ったらつるつるな大きな木の根っこで、足が滑って勢いよく横向きにひっくり返ってしまい、左の脇腹をむき出しの樹の根っこで強く打ってしまった。

次第に高度が上がるにつれて、杉の植林地帯からブナ林へと変わり、やがてダケカンバも混じるようになる。左後方には谷川岳も見える。明るいブナ林の急登を登りきり、14 時半、ようやく咲倉沢ノ頭避難小屋に到着。狭い避難小屋で、扉は壊れ、休みたくなるような場所ではなかった。それでも、小屋の前からの武尊岳の眺めは素晴らしかった。

小屋からなだらかな痩せ尾根を少し進むと、尾根が広くなり、ブナとダケカンバの混合林から美しいシラビソの林となる。ダケカンバの大木もところどころに生えている。テントを張って 1 泊したくなるような場所が続く。午後になって気温があがり、雪が腐って歩きにくくなっていたので、この広いなだらかな尾根ではスノーシューを履いた。

4 時になったところでラジオの気象情報を聞いて天気図をつける。しばらく好天が期待できそうだ。

しばらく進むと、右手に燧ヶ岳が樹林の間から垣間見えるようになった。標高 1962m のピークを過ぎると緩やかな下りとなり、笠ヶ岳と 1962m ピークの間のコル、螢池や片藤沼のあたりで、正面に大きな至仏山と、そしてそのやや右手に燧ヶ岳が並んで見える場所があり、周囲の雰囲気も良かったので、目標の小笠よりも少し手前だが、この日はここで幕営することに決めた。周囲に人気は全くなかった。この日は、バスを降りてから全く人に会わない、ゴールデンウィーク中とは思えない静かな 1 日だった。



水上駅前からバスに乗る。ご覧の通りの青空。



最初は少し道が分かりにくかった。



終点の湯ノ小屋バス停で降りたのは私一人。



最初はところどころに雪が残っている程度。



バス停から少し歩くと登山道入り口の標識。



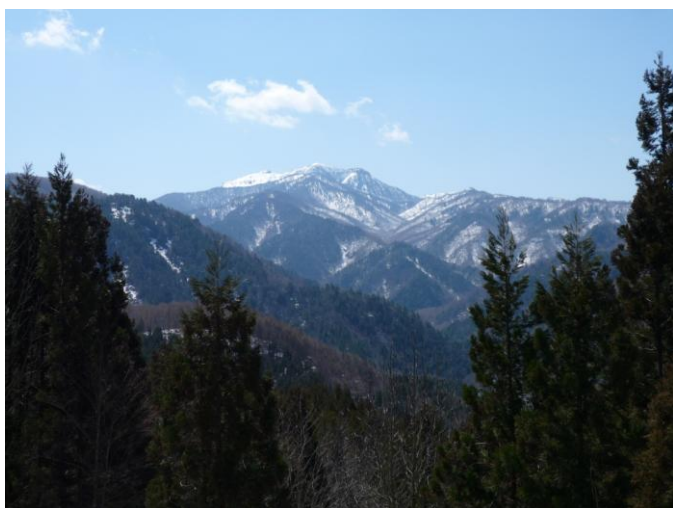
笠ヶ岳へ続く尾根に出た。



次第に雪が多くなってきた。午前中は雪が締まって歩きやすかった。



残雪期らしい光景。



右手には、2週間前に登った武尊岳が樹林の間から垣間見える。

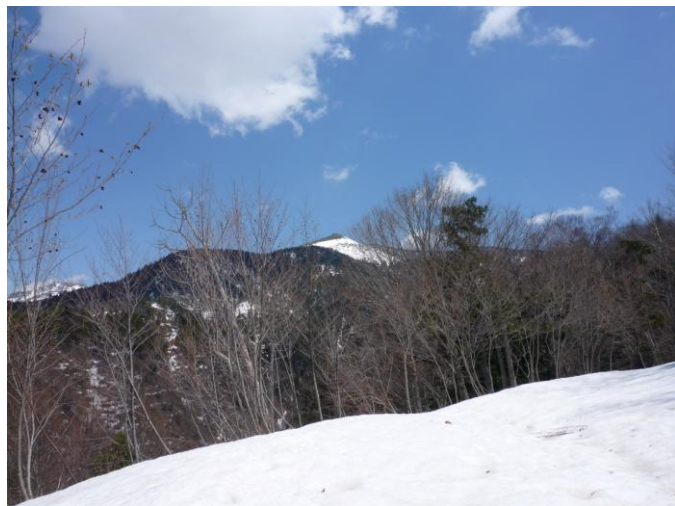


一度林道とぶつかり、少し林道を歩くとゲートがある。そこからは完全に山道。

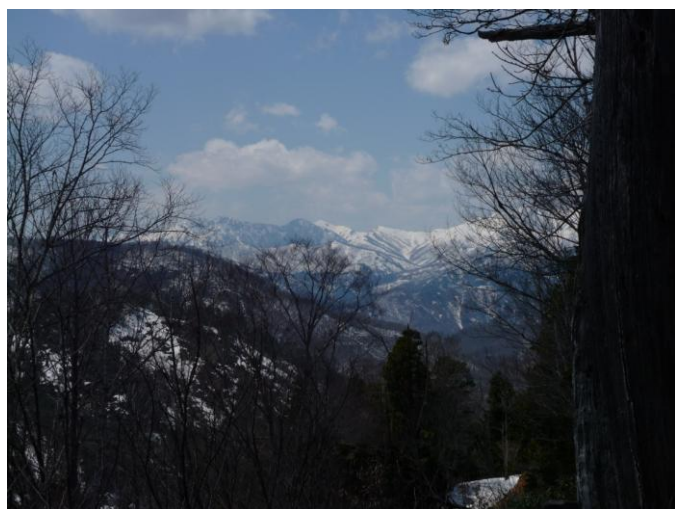




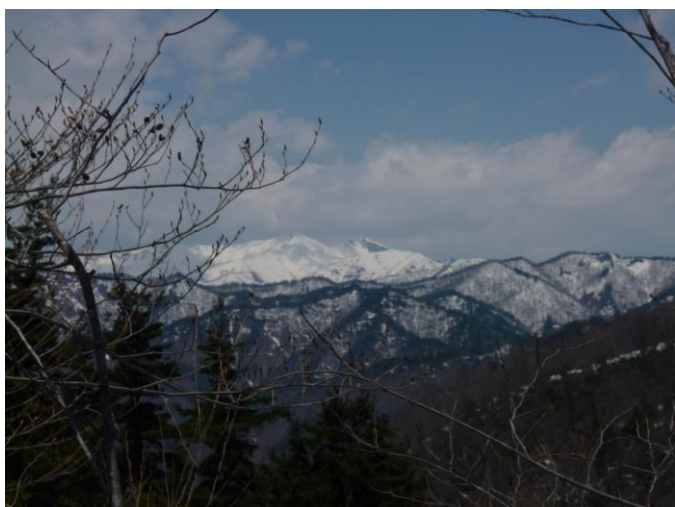
初めのうちは標高 1000m程の尾根を緩やかに登るので、雪が完全に溶けているところも。



目標の笠ヶ岳はまだ高く遠い。



谷川岳。

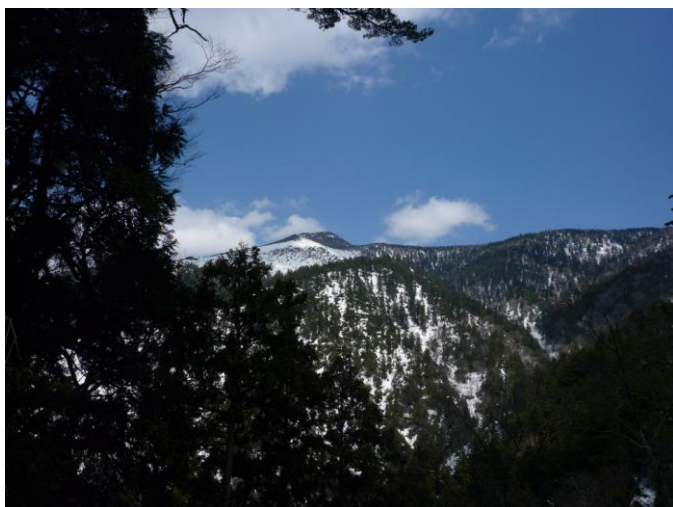


左後方には真っ白な上越国境の山。





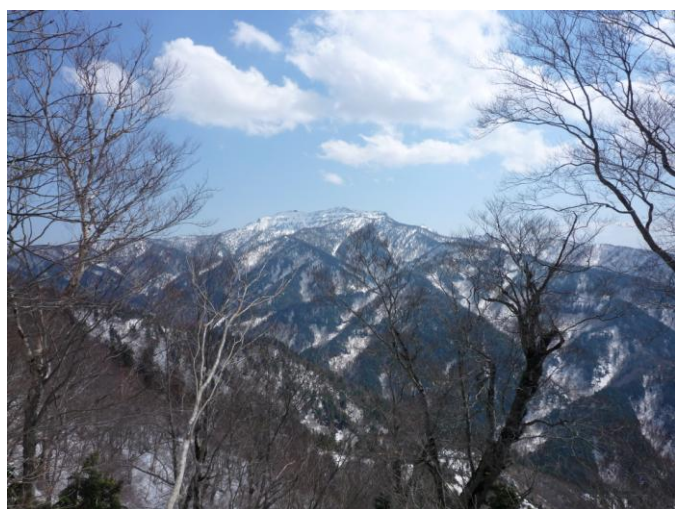
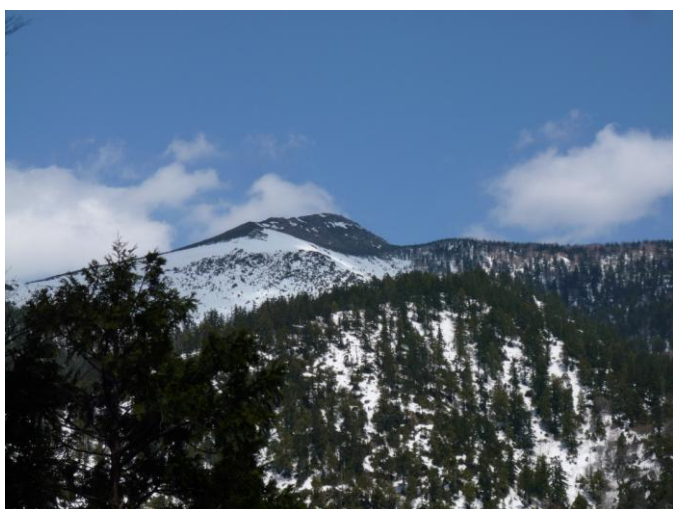
傾斜がきつくなり、ペースがさらに落ちる。木の根が滑って歩きにくい。



笠ヶ岳がなかなか近づかない。



ブナが多くなってきた。



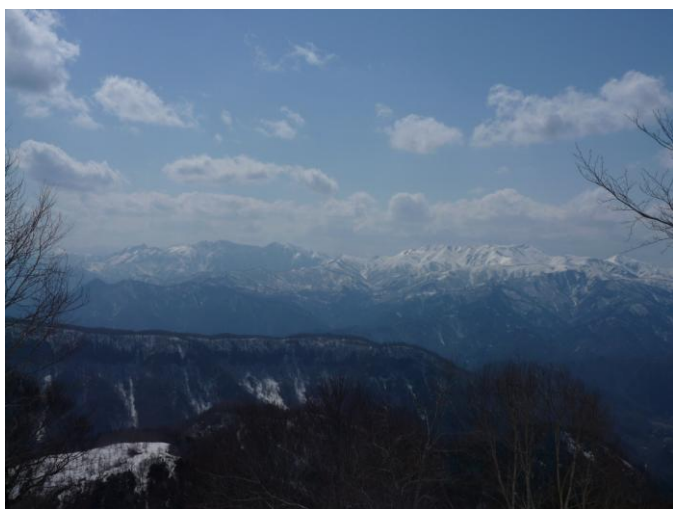
武尊岳



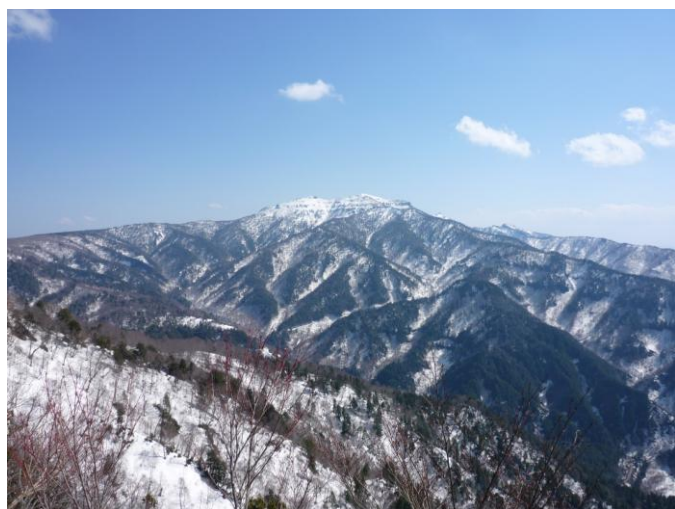
ブナの美林。



咲倉沢ノ頭避難小屋にようやく到着。



後を振り返る。谷川岳（左の黒い山）と朝日岳。



小屋の前からは武尊岳の眺めが素晴らしい。



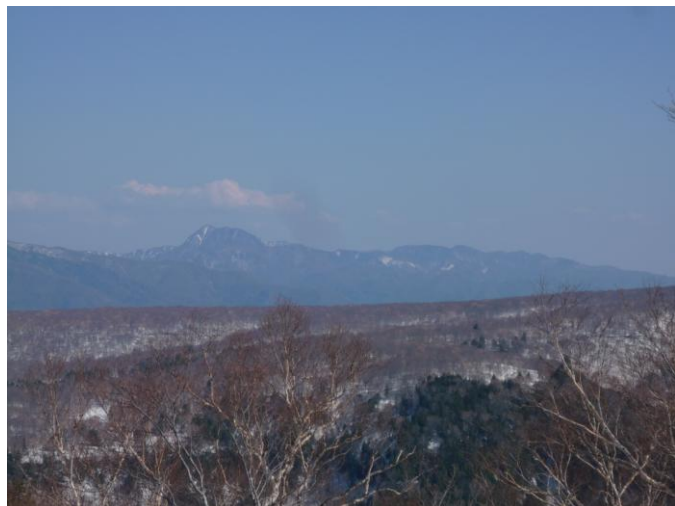
ダケカンバが多くなる。



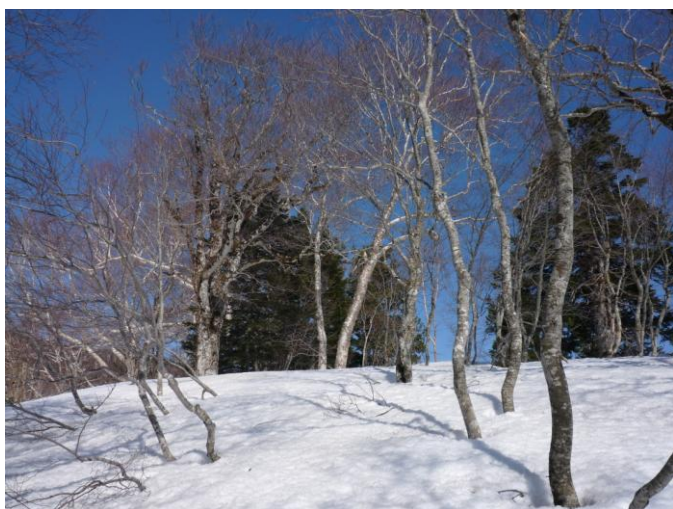
上越国境の山々の眺め。



小屋からは、なだらかな尾根が続く。



先週縦走した皇海山から袈裟丸山の尾根。



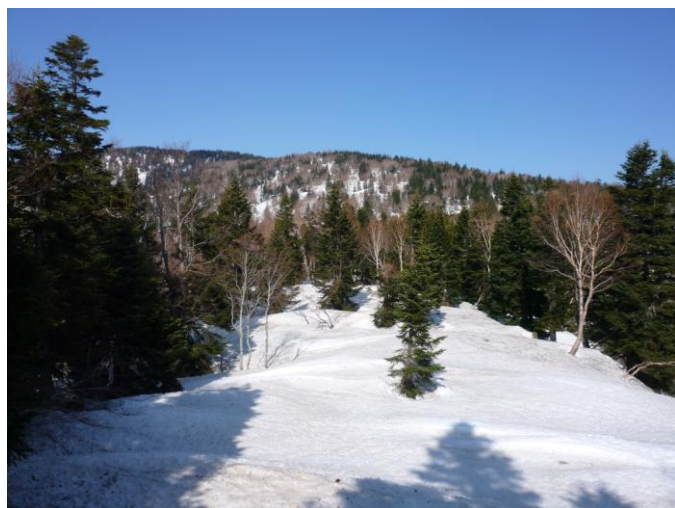
やがて尾根が広くなる。



笠ヶ岳が近付いてきた。



右手には皇海山。



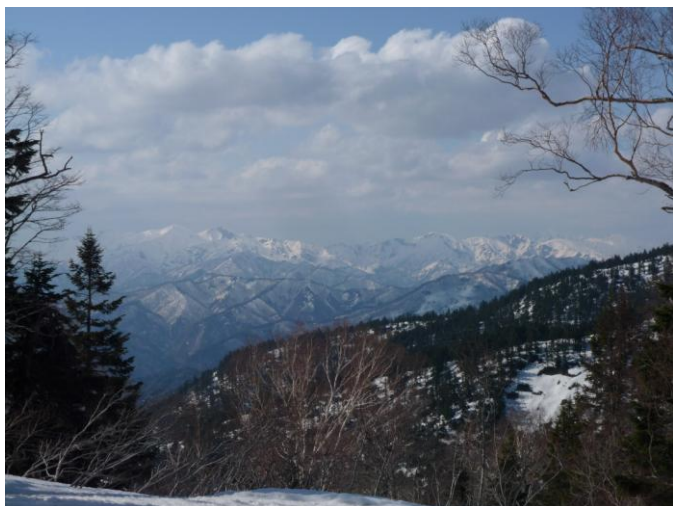
シラビソとダケカンバの美しい樹林帯。気温が上がって雪が腐り、潜って歩きにくい。



そこでスノーシューに履きかえる。



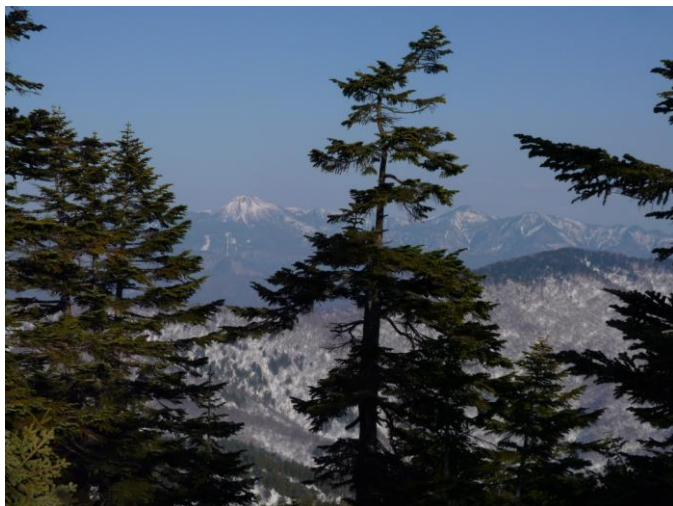
ダケカンバの大木。



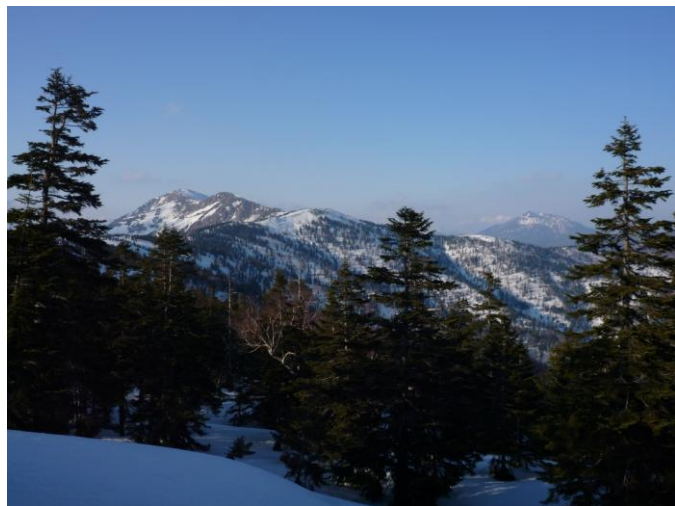
ダケカンバがシラビソの中から生えている！？



スキーの新しいシュプール。鳩待峠からやってきて、戸倉の方へ滑って降りた模様。



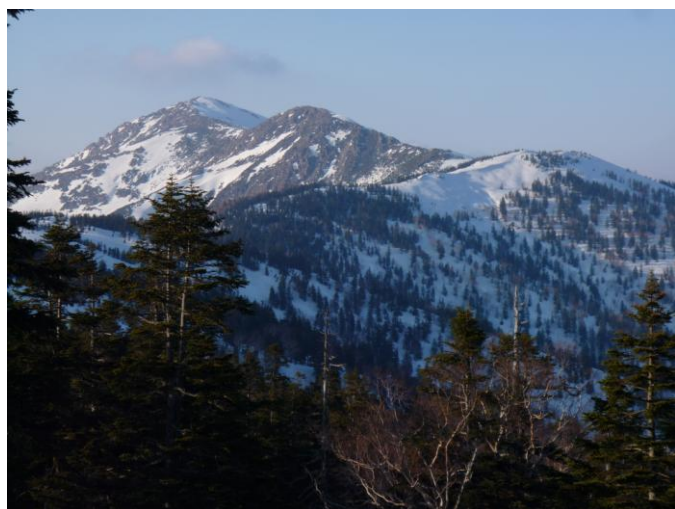
日光白根山。



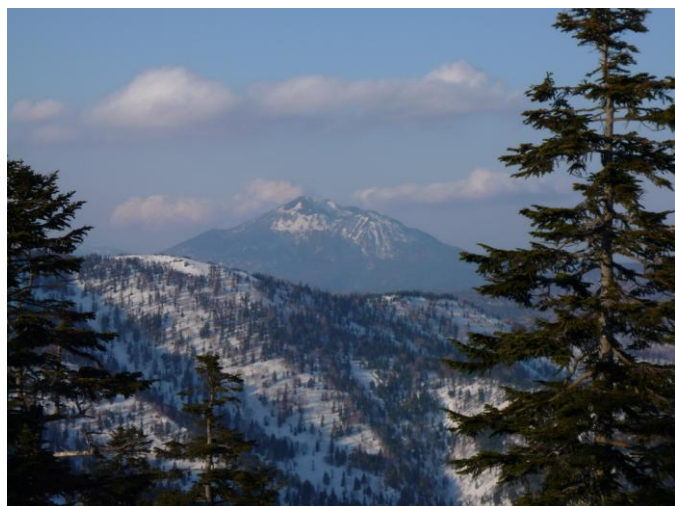
テントの前からの眺め。左が至仏山、右が燧ヶ岳。



笠ヶ岳と 1962mピークの間のコル。夏には池が現れる湿地帯の近く。眺めがよく、雰囲気もいいので、ここで幕営することにした。



至仏山。



燧ヶ岳。